

都学歯困広報

目次

● 味覚とおいしさの科学 （和の味を子供たちに伝えるために）	長井 博昭	2
● 東京都教育庁 歯科保健担当課長 ご挨拶	三ツ木 浩	4
● 最近、気になること その4 『いたたきます』の大切さ	澤田 章司	5
● 地区学校歯科医会からのメッセージ 新宿学校歯科医会 東京都東大和市歯科医師会 東大和学校歯科委員会		6
● ホームページをお開きください こんなことが「学校歯科医執務記録」になります		8
● 学校歯科医執務記録		8
● 地区ニュース 中野／練馬		9
● トピックス 平成26年度 第1回参事会／ 平成26年度 第1回予算決算特別委員会／ 第3回定時代議員会		10
● 平成26年度 ブロック別学校歯科医研修会日程		11
● 平成26年度 各種大会日程		12
● 会務報告・計報		12
● コラム「しがみつく」	関根 正行	12

TOGAKUSHI KOHO



公益社団法人東京都歯科医師会
平成25年度ポスターコンクール優秀作品
中野区立新山小学校
富田 りん

一般社団法人 東京都学校歯科医会
〒102 東京都千代田区九段北4-1-20
-0073 TEL. 03-3261-1675
FAX. 03-3222-6528
<http://www.tasd.or.jp>
E-mail tasd@tasd.or.jp
発行人／鈴木 博
印刷／一世印刷株式会社

110

2014. 6

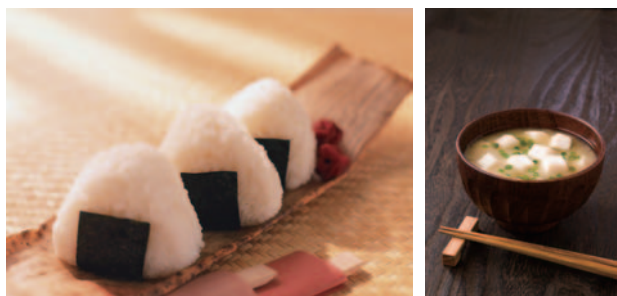
味覚とおいしさの科学

～和の味を子供たちに伝えるために～

学術担当理事 長井 博昭

食育というと、栄養学的な見地から食べることの大切さについて啓発することが多いかと思います。食育関連の参考図書も、栄養についてのものや、食事をする、噛むことについてのものを多く目にすることかと思えます。今回作成した冊子は、味覚という見地から食育を考えていただくことを目的に、味覚に関する情報を最新の知見を含んで提供しております。是非とも学校歯科医・園歯科医の先生方に保健活動の現場でお役立ていただければと思います。

また、世界が注目している和食の素晴らしさを再認識していただきたくために、和食について、日本の風土、伝統的な習慣等の背景を含めて紹介しております。冊子作成中の2013年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された和食の素晴らしさについて、子供たちに伝承していただければ幸いです。



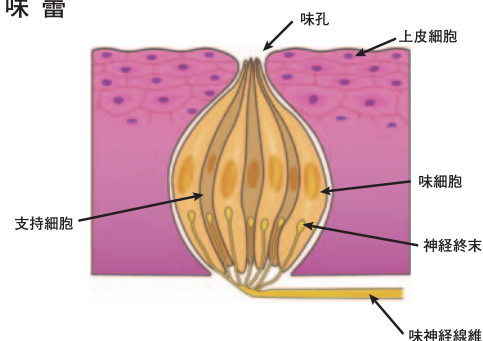
見を集めていただきました。そして、好き・嫌いの学習についてや視覚や、嗅覚など他の感覚と味覚との関係についても解説いただいております。

また、これまでの味覚に関する研究論文をレビューしてもらい、おいしさや嗜好について30を超える文献に基づき、解説していただきました。歯科医師にはあまり馴染みのない用語等もありますが食物学の分野にも目を向けていただき、興味がある方はさらに参考文献を当たっていただければと思います。

1. 味覚の基礎

味覚を理解するために必要と思われる解剖学的知識と生理学的知識を分かりやすく紹介していただきました。口腔、咽頭、喉頭の解剖、そして、味蕾の存在部位と味蕾が存在する粘膜の構造について解剖学的解説をしていただいております。生理学的な面からは、特殊感覚の中の味覚について詳細に解説いただいております。味を感じる細胞における味覚受容の研究は、分子・細胞レベルで日進月歩に進んでいるので、できる限り最新の知

味蕾



2. ステージに応じた味覚教育

幼児期から学童期までに味覚教育をする上でのキーポイントを、厚生労働省の食育指針に基づいて、栄養学的な面から紹介していただきました。各ステージの食行動等の特徴と指導のポイントを解説していただいております。

また、小学校、中学校での食育の場という点において欠かすことのできない給食について、その歴史的背景を含めて解説していただきました。味覚教育という点から、献立をたてる際に考えること、調理をする際に工夫していることなど、給食を通して児童生徒に伝えようとしている目標等を紹介していただきました。

3. 誰にでもできる味覚の実験

近ごろ、子供たちの食生活の乱れが指摘され、子供たちの味覚がおかしくなっている可能性が疑われています。特に濃い味に慣れてしまい、和食の特徴である出汁^{だし}の味がわからなくなっているのではないかという疑問が生じており、そこで、本冊子を作製するにあたり、東京都内の幼稚園児・保育園児から高校生までの味覚に関して調査してみることになり、アンケートと簡単な味覚の実験を行いました。そして東京都内の全18に及ぶ園・学校にご協力いただいて行ったアンケート調査と味覚の実験結果について、考察を加えて報告させていただきます。

またこの章では、東京都内での調査に用いた、幼児から大人までが普通に市販されている材料を使って実施できる味覚の実験や、小学校で行っているご飯と味噌汁の実験、そして高校で行っている調理実験についてご紹介しております。

是非ともこの章を参考にしていただき、実際に学校歯科保健活動の一つとして味覚の実験を行っていただければと思います。

4. 味覚の障害について

味覚異常の病態についてその症状を分かりやすく紹介していただくとともに、味覚障害の年齢分布や性差について解説していただいております。

また、専門外来で行われている検査について概略を示していただきました。そしてさらに味覚障害の予防と治療についても解説していただきました。

5. 和食って素敵

この冊子を作成する目的の一つに和食の素晴らしさを再認識していただき、和の味を子供たちに伝承していただくことがあり、この章をもうけました。冊子作成中の2013年12月、大変嬉しいことに和食がユネスコ無形文化遺産に登録されました。そこで、世界に誇る和食の素晴らしさ、そして世界が求める和食について紹介していただきました。

日本の行事食、季節を感じる料理、願いが込められた料理、おふくろの味、家庭料理等を紹介していただいたほか、米、だし食材、発酵調味料、醸造技術、日本茶、日本料理の献立、日本の調理法の特徴にまで及んで紹介していただきました。



6. コラムと索引

本文中には13個のテーマでコラムをもうけ、食にまつわる様々な話題を提供させていただいております。

また、最後に索引を付けさせていただきました。食物学の用語や日頃あまり耳にしない言葉等を拾い上げましたのでお役立ていただければ幸いです。

国立国会図書館の蔵書の一つとなったこの冊子を是非ご活用下さい！

東京都教育庁 歯科保健担当課長 ご挨拶

東京都教育庁 地域教育支援部

歯科保健担当課長 三ツ木 浩



この度、平成26年4月1日付けで東京都教育庁地域教育支援部 歯科保健担当課長を拝命いたしました三ツ木 浩(みつぎ ひろし)と申します。どうぞ、よろしくお願い致します。

川本会長先生を始め東京都学校歯科医会の先生方、事務局の皆様には、日頃より東京都の学校歯科保健衛生に深いご理解と多大なご協力を頂き誠にありがとうございます。この場をお借り致しまして改めてお礼申し上げます。

私は、杉並区から江東区、そして前任は南多摩保健所と行政にお世話になって以来ずっと保健所に勤務してまいりました。この度の異動で教育、学校保健の職場は初めてになります。至らぬこと多いと思いますが、何卒、よろしくお願いいたします。

さて、東京都歯科保健目標「いい歯東京」では幼齢期・学齢期の達成目標として『生涯にわたる歯と口腔の健康の基盤づくり』を大目標としています。また、この大目標を達成するための指標として、中目標を設定していますが、12歳におけるDMF 歯数の減少と12歳における歯肉に炎症所見(GOおよびG)のある者の割合減少の2点もこの中目標の中にあげています。平成24年度のデータを見ますと、12歳のDMFTは、東京都全体で1.03となっており、一つの節目の値となる1.0に近づいてきました。一方、歯肉に炎症所見のみられる者の割合は15%を超えています。う蝕の減少と歯肉所見の増加を指摘されて久しくなりますが、この状況はいまだに変わっていません。あわせて、課外活動、体育授業時のスポーツや学校内での事故による歯・口の外傷も見過ごすことのできない問題だと思います。また、混合歯列期から永久歯列の完成に向かうこの時期、摂食・嚥下機能、構音・発声機能をふまえ、歯・口腔の健全な

発育も課題です。

このように、学齢期には数多くの取り組むべき課題がありますが、これらは、学齢期に限ったことでも無く、生涯を通じて取組み続ける歯科保健の課題だと考えます。しかし、学齢期は「いい歯東京」の大目標に挙げているように“生涯にわたる歯と口腔の健康の基盤を築き上げる”大変重要な時期であると言えます。“雀百まで踊り忘れず”のたとえのように子どものころに獲得した習慣は年齢が進んでも変わらないものです。乳幼児期に習得したことがこれにあたるでしょう。乳幼児期に望ましい歯科保健習慣を確立することの大切さは改めて言うまでもありません。しかし、実は望ましくない習慣を身に付けてしまった可能性もあります。人の行いは、新しい知見を得ることでもいくらでも変容し得ることも事実だと思います。それまでに獲得した歯科保健習慣が仮に望ましいものでなかったとしても、科学に基づく正しい知識を学齢期の諸段階に応じて健康教育することで望ましい歯科保健習慣を身に付けるとともに、これから先、自らの力で自らの健康を作り守っていくために必要な情報や知識を見極める力を醸成する時期であると考えます。

健康を自己管理していく能力こそ『生きる力』であり、この能力を学校現場でエンパワーメントしていくことが『生きる力』をはぐくむ事であると思います。このために、何が必要で何をどのようにしていけばいいのか、確立した変えざるもの、新たに取り入れるべきもの、広く総論的に考えなくてはいけないもの、現場の実情に照らして考えなくてはならないものなどたくさんの課題があると思います。これら課題を都学歯の皆さんと一緒に解決していければ幸いです。これからどうぞご指導のほどよろしくお願いいたします。

『いただきます』の大切さ



学術担当理事 澤田 章司

広辞苑では『いただきます』とは、出された料理を食べ始めるときの挨拶の言葉とあります。また、語源由来辞典では『いただき』は動詞、『頂く・戴く』の連用形で山の頭の一番高いところを『頂』と言うように、本来は『いただく』は頭上に載せる意味を表した語であるとあります。中世以降、上位の者から物を貰う際に頭上に載せるような動作をしたことから『いただく』に『もらう』という意味の謙譲用法が生じました。やがて、上位の者からもらった物や神仏に供えた物を飲食する際にも、頭上に載せるような動作をし、食事をしたことから、飲食をする意味の謙譲用法が生まれ、食事を始める際の挨拶として『いただきます』と言うようになった、とあります。

さて、近年、食事の際に『いただきます』を言う家庭が少なくなっていることは大変残念です。以前、ある小学校で給食の時は『いただきます』を言ってから食べましょうと家庭に申し送ったところ、児童の親からクレームがあがり、メディアで話題になりました。『給食費を払っているのに“いただきます”と言わせるとは何事か』

『そんな失礼なことをうちの子には言わせないで欲しい』などの意見です。ちょっと待って下さい。『いただきます』の本来の意味をもう少し冷静に考えてみてはどうでしょう。食前の挨拶に、『天地（あめつち）の恵みと、多くの人々の働きに感謝して、命のもとを謹んでいただきます』という言葉があります。この言葉が全ての意味を含んでいるように思えます。つまり、一つ目は『自然に対していただきます』です。食卓にあがる全

ての命は自然が育んでくれています。太陽・土・水・空気など多くの命を生み出してくれる自然に感謝します。二つ目は『労働に対していただきます』です。食事が食卓に並ぶまでに多くの人たちの働きがあります。安全でおいしい食材を作ってくれる、運んでくれる、料理してくれる人たちの労働に感謝します。三つ目は『命に対していただきます』です。人は多くの生き物によって支えられています。肉・魚・野菜など様々な尊い命をいただくことで、自分の命が育まれることに感謝します。『いただきます』とは、何と素晴らしい挨拶ではないでしょうか。

日本の食事の挨拶には、もう一つ素晴らしい言葉があります。それは『ごちそうさま』です。『ご馳走様』は『馳走になりました』のことで、『馳』『走』ともに『はしる』の意味であり、昔は客人を迎えるのに走り回って獲物をとってきてもてなしましたが、そんな命がけの働きに客人が『有難う』と心からの感謝の気持ちを表したものです。

このように日本の食文化には他国では類を見ない全てに感謝の気持ちを込めた日本独自の素晴らしい食前・食後の挨拶が形成されてきました。

『いただきます』『ごちそうさま』の挨拶とともに毎日の食事を重ねていく中で、日本の素晴らしい食文化が心と体に染み渡っていくのではないのでしょうか。豊かで便利な飽食の現代『食べ物を大切に思う心』をほんの少し呼び戻し、本当の『豊かな食』を楽しみませんか。

地区学校歯科医会からのメッセージ

新宿学校歯科医会

会長 石川博基

新宿区歯科医師会が発足した当時は29校あった担当校が、現在は新宿区でも少子化が顕著となり、児童生徒は減少し、小中学校の統廃合が進み、現在は23校となっています。内訳は、小学校16校（幼稚園兼務8校）、中学校6校、特別支援学校1校となっています。本会の前身である東京府歯科医師会淀橋支部時代は、学校歯科医の任期はなく、ひとりの校医が長年にわたり担当していました。現在も、50年以上にわたって歯科医が交代することなく同一の学校の学校歯科医を担当していることが全国的に多々見られます。新宿区歯科医師会の発足と同時期に、多くの会員が学校歯科医を担当すべきであるとの意見から、各ブロックの推薦により、2年の任期で行うことになりました。その後、昭和30年から3年任期となり、昭和63年に2期まで再任と定められました。

以前より学校歯科の活動は歯科医師会の地域保健活動の大きな柱であり、本会が主導的にその運営や学校歯科医の選考などに関わり、より活動の活性化、行政と関わりあいの強化などを図ってゆくことが本来の姿であるとの考え方がありました。

平成16年3月の本会総会の協議事項として、学校歯科医会より本会への統合の案が提案されました。その後、地域保健、公衆衛生活動の充実の一環として、新宿学校歯科医師会を本会の組織の一つになるための検討作業が精力的に進められました。その結果、平成19年度から正式に本会の委員会の一つとして学校歯科医会が発足しました。

学校歯科委員会の中に、各学校を担当している学校歯科医による学校歯科担当医会があり、学校歯科保健活動についての各学校における活動状況の報告などを行い、お互いに学校歯科医としての活動の充実について協議、研修を行っています。現在は3期6年と定められていますが、2年に1回改選を行います。年末までに公募者を集め、学校歯科医登録のための研修会を行い、その後学校歯科委員会にて検討し、本会の理事会の承認を得て、新年度までに新宿区へ本会会長より推薦して



頂きます。本会へ統合されてから、保育園歯科医の推薦も併せて行うようになり、出来るだけ学校（保育園）の近くの先生を推薦するようになってきました。しかし、地区により学校数と学校歯科医希望者の数が反比例するようになり、年々苦勞しています。今年度も、年末に行う予定です。さらに学校歯科委員会による学校医研修会を開催し、本会会員にも学校歯科医の活動内容について広報を行っています。新宿区教育委員会が発行している「新宿区学校保健会だより」の研究報告に新宿区学校歯科医連合会（四谷・牛込も含む）として、平成16年3月号には「学校における歯牙外傷の実態とその対応についての調査」、平成20年3月号には「CO（要観察歯）と診断された永久歯の経過状況について」、平成24年3月号には「新宿区における小・中学生のむし歯有病状況と生活習慣および保健行動の関連について」が掲載されました。特に平成24年度の研究報告は東京歯科大学、眞木吉信教授のご協力、ご指導を頂き、全校の調査は難しいと判断し、小学校2校（小1）、中学校2校（中1）で、父兄と生徒のアンケート調査及び、新宿区の他の区立小・中学校の養護教諭にもアンケート調査を実施し、

- ① 学校における歯科保健の取り組み
- ② 学校歯科健康診断の結果と歯科疾患の実態について
- ③ むし歯の有病状況と生活習慣および保健行動の関連について

を調査し、全国のデータと比較し、研究報告を行いました。今後も学校歯科保健向上のために、このような調査・研究が続けられることを、特に、新宿学校歯科医会の中心である学校歯科委員会の中で協力し、継続して行えるように努力していきたいと思っています。

東京都東大和市歯科医師会 東大和学校歯科委員会

副委員長 黒米 譲二

東大和市は東京の多摩地域、北部にある市で、人口85,383人（平成26年4月1日現在）。近隣には東村山市、武蔵村山市、小平市、立川市があります。東京郊外のため緑も多く、空気も澄んでいるので、とても住みやすい街です。都内にも1時間足らずで通える通勤圏内なのでベッドタウンとしての街の顔も持っています。

また、街の北側には狭山丘陵、村山貯水池（多摩湖）があり、その周辺にはサイクリングロードがあり、自然豊かな面影を残す所が多いのも街の特徴です。

現在、東大和市には小学校が10校、中学校が5校あり、それぞれ東大和市歯科医師会から学校歯科医が1校に一人ずつ配属されております。ここ数年、東大和市歯科医師会の中では、歯科健康診断の統一化を計ること、学校歯科医の輪番制について、講話についてなどの話題があがるようになってまいりました。

一昨年、本会の理事会におきまして、東大和にも学校歯科委員会を立ち上げようという話し合いがなされ、漸く東大和学校歯科委員会が生まれました。実は、かなり以前から学校歯科委員会の話は持ち上がっていたのですが、会員が30名足らずの会では、本会の会務の運営に精一杯のところがあり、なかなか学校歯科まで手が回らなかったというのが正直な話です。

東大和学校歯科委員会の発足にあたり、委員長には林 弘明先生（矯正専門医、本会では広報担当理事）、副委員長には今井恒夫先生（本会では公衆衛生担当理事）、もう一人の副委員長に私、黒米譲二（本会では副会長）が選ばれました。その後、数十回の話し合いを経て、当面の方向性を決めて行きました。

特に林先生におかれましては東大和市の教育委員会の面々と何回となく、東大和市内の子どもの口腔状態の現状についての話し合いを重ね、お互いの立場での意見交換を行って頂きました。

恥ずかしながら東大和市内の小学校のう蝕被患

率は東京にある26市中、ワースト1、または2を行ったり来たりというのが現状です。発足したばかりの東大和学校歯科委員会ではそのう蝕被患率を低くするには何をどうすれば良いのか考えてまいりました。

そこで、学校歯科医の先生方には全て、日本学校歯科医会と東京都学校歯科医会に入会して頂きました。それまでは、日学歯と都学歯の入会については曖昧にしておりましたので、このような規則が生まれたことも学校歯科委員会としては一歩踏み出したことになります。

そして、歯科健康診断の統一化です。歯科健康診断の方法が、診る先生により、まちまちではデータに不備が出ます。そこで学校歯科医を集め都学歯で頂いた資料をもとに学校医の皆様にレクチャーいたしました。あとは、学校歯科医の輪番制についても考えました。若い先生方で学校歯科医を持ちたくても持てない先生がおりましたので、これまでのやり方とは変えていかなければならない。これから歯科医師会に入会する先生方のためにも、また歯科健康診断のデータの平均化を計るためにも将来的に学校歯科医の輪番制は必須であると判断いたしました。

そして、子どもたちに直接話を聞いてもらい、口腔衛生について学んでもらう講話につきましても、各々の学校に差が無いようにしていこうと考えております。

以上、まだ立ち上がったばかりで未熟な東大和学校歯科委員会ですが、これからのご指導ご鞭撻をいただきながら成長していき、東大和市内の子どもの口腔衛生環境が少しでも良くなっていけば嬉しい限りです。

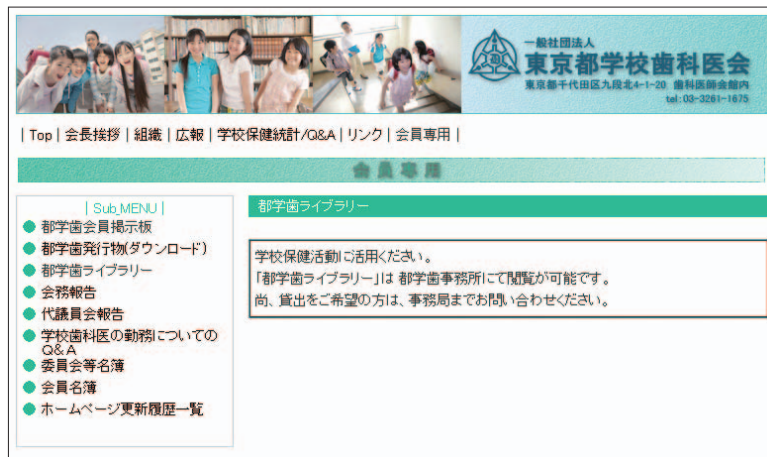


手前から、衛生士の井田、黒米、養護の木村

ホームページをお開きください

<http://www.tasd.or.jp/>

東京都学校歯科医会会員の先生方には常日頃、お世話になっております。
会員のページには新たに「会員名簿」や「都学歯ライブラリー」を掲載しております。
ご利用下さい。



会員のページにアクセスするには「ID」と「パスワード」が必要です。広報誌に同封の別刷をご確認ください。お忘れな場合は事務局へ連絡してください。

会員の先生方のご意見など反映できるように努力していきたいと考えております。ぜひホームページをお開きください。
(会誌・広報委員会)

● こんなことが「学校歯科医執務記録」になります ●

学校歯科医執務記録は学校保健法施行規則で「学校歯科医が職務に従事したときはその職務を学校歯科医執務記録簿に記入し校長に提出する」と定められています。

学校に出向いての執務はもちろんです、

- ①校外施設での指導
- ②学校における学校保健に関する各種会合
- ③（教育委員会主催等）指定された研修会、講演会への参加
- ④（教育委員会主催等）指定された大会、学会等への参加
- ⑤養護教諭や学級担任からの相談（電話、メール等）
- ⑥診療所に来訪した児童・生徒の保健指導

なども執務とみなされます。

※①～④は「出勤」、⑤、⑥は「協力」になります。

なお、執務記録の「8. 学校行事に参加」には入学式、卒業式、周年事業、運動会、学芸会、PTA、学校保健委員会等も含まれます。

個別のケースについては、所管の教育委員会にお問い合わせください。

学校保健に関する歯科医師会などの理事会・委員会への参加そのものは「出勤」になりません。来校して学校保健の内容を情報提供することが「出勤」になります。また、電話・ファクシミリ等で学校保健の内容を学校歯科医が直接に学校へ情報提供することは「協力」になります。執務記録に記載してください。

9 ページの執務記録をコピーしてお使い下さい。

認 印 欄	(学校長)
-------------	-------

年 月 日

学 校 歯 科 医 執 務 記 録

		執務者氏名	⑩
執務日時	月 日 () 午前・午後 全 日	執 務 場 所	学校, 診療所 (来訪電話等), 研修会, 大会, その他 ()
執 務 の 概 要			
項 目		記 事	
1 学校保健委員会等 (1) 学校保健計画立案 (2) その他			
2 定期健康診断			
3 就学時健康診断			
4 臨時健康診断			
5 健康相談及び健康指導 (1) 健康講話 (2) 相談 (3) 健康指導 (4) その他		特 記 事 項	
6 学校保健に関する研修会, 大会等			
7 授業参加			
8 学校行事に参加			
9 その他 (1) 救急時の処置 (2) フッ素塗布 (3) その他			

注意事項

- 1 学校歯科医は, 職務に従事したとき, その状況をこの執務記録に記入し, 校長に提出してください。
- 2 この執務記録は, 執務日ごとに記入してください。1日のうちで執務が数種にわたる時でも, 1枚にまとめて記入してください。
- 3 学校以外の場所で執務した時は, 出校時に記入してください。

中野区学校歯科医研修会

中 野

平成26年2月5日（水）会館講堂において学校歯科医研修会が行われました。これは学校歯科医の職責の確認や知識の向上を目的として年一回必修として開催しています。今年度は「一步踏み込んだ学校歯科保健活動」というテーマで、講師として東京都学校歯科医会の酒井克典先生をお呼びしました。

区内各小中学校の健康診断結果データを比較して判定基準の再確認をしたり、個への対応の必要性、事後措置の具体例などお話しいただき参考になりました。



今回は外部から現状を見て話して頂いたことで中野の今後の課題が見えてきた有意義な研修会でした。

（横山いづみ）

歯肉炎調査と倫理委員会設置について

練 馬

歯肉炎は年々増加傾向で、特に小学校高学年から中学生の時期に急増するというデータがみられます。学術委員会は、中学生の下顎前歯部の写真を「正常、GO、G」の3段階で判定し、罹患状況や昼食後歯みがき実施の有無による有意差についての研究を進行中です。今回は、ヘルシンキ宣言を遵守し、「倫理委員会」を設置する事が時流であり、写真撮影も同意書に



サインをした生徒のみとし、画像匿名化等、個人情報の保護に努めています。

（南 誠二）

平成26年度 第1回予算決算特別委員会

平成26年5月8日（木）歯科医師会館2階第2会議室において、標記委員会が開催されました。第3回定時代議員会日程の報告の後、協議事項として、第3回定時代委員会の議事として、事業報告及び収支決算報告について審議、第80回全国学校歯科保健研究大会の東京都開催についての説明、また予算決算特別委員会規則の変更についての審議が行われました。



平成26年度 第1回参事会

平成26年5月15日（木）15時30分より歯科医師会館3階第1会議室において、平成26年度第1回参事会が開催されました。来賓として、三ツ木浩東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長、清水恵太日学歯会長、高橋哲夫都歯会長、高橋英登都歯連盟会長がそれぞれ挨拶をされました。恒例により川本会長が座長となり、①第3回定時代議員会の開催について、②学校歯科保健優良校表彰および歯の作文募集について、③「図画・ポスター審査会および表彰式」「歯・口の健康啓発標語コンクール」について④東京都学校歯科保健功労者表彰について、⑤平成26年度ブロック別研修



会について、⑥各種大会・研修会日程について、⑦第80回全国学校歯科保健研究大会東京開催について、⑧その他が報告されました。最後に小嶋副会長が閉会を述べました。

第3回定時代議員会

平成26年6月12日（木）15時より、第3回定時代議員会が歯科医師会館1F大会議室で行われた。

鈴木専務理事の司会のもと、議長は練馬の望月代議員、副議長には麻布赤坂の藤野代議員がなり、由井副会長が開会を宣言した。川本会長が味覚の冊子を国立図書館に寄贈したと挨拶をされた。次に来賓として、清水恵太日本学校歯科医会会長、高橋哲夫東京都歯科医師会会長、また蒲池元春東京都歯科医師連盟副会長が挨拶をされた。議事録署名人には港区芝の華岡代議員、江東の幸阪代議員が選出された。

次に渡邊理事が会務報告を行い、次に長沼理事より会計現況報告がなされた。ここで会長挨拶から会計現況報告までの質疑がなされ、芝の華岡代議員、八王子の岡部代議員からの質問に答弁し、承認された。

議事にはいり、

第1号議案 平成25年度事業報告及びその附属明細書

第2号議案 平成25年度貸借対照表、正味財産増減計算書及びこれらの附属明細書並びに財産目録

第3号議案 予算決算特別委員会規則の変更

が上程され、第1号議案を鈴木専務理事が、第2号議案を長沼理事が説明し、荒木監事が監査報告を行った。次に予算決算特別委員会報告が松浦委員長によってなされた。質疑にはいり、目黒の堀内代議員、杉並



の小川代議員、文京の土居代議員、調布の弘中代議員、葛飾の飯塚代議員より質疑・要望があったのち採決に入り、第1号議案、第2号議案ともに挙手多数で可決確定された。第3号議案も挙手多数で可決確定された。

最後に小嶋副会長が閉会を述べた。

平成26年度 ブロック別学校歯科医研修会日程

	城南ブロック	城北ブロック	多摩ブロック
日時	平成26年9月18日（木） 18：00～20：30 集合 18：00～ 開会 18：30～	平成26年10月9日（木） 18：00～20：30 集合 18：00～ 開会 18：30～	平成26年11月13日（木） 18：00～20：30 集合 18：00～ 開会 18：30～
会場	・玉川歯科医師会館 （世田谷区玉川3-21-2） ・TEL 03-3708-4618 ・最寄駅 ○田園都市線・大井町線 二子玉川駅	・滝野川歯科医師会館 （北区西ヶ原2-41-11） ・TEL 03-3918-8060 ・最寄駅 ○南北線 西ヶ原駅	・三鷹産業プラザ （三鷹市下連雀3-38-4） ・TEL 0422-40-9911 ・最寄駅 ○中央線・総武線 三鷹駅
演題	「味覚とおいしさの科学 ～和の味を子供たちに伝える ために～」 ◇講師 東京歯科大学 生理学講座 講師 澁川 義幸	「味覚とおいしさの科学 ～和の味を子供たちに伝える ために～」 ◇講師 東京歯科大学 生理学講座 講師 澁川 義幸	「味覚とおいしさの科学 ～和の味を子供たちに伝える ために～」 ◇講師 東京歯科大学 生理学講座 講師 澁川 義幸
責 任 地 区	・玉川 渡邊 嗣 03-3701-2823	・滝野川 江口 淳一 03-3910-2155	・三鷹 竹下 敦 042-232-8046

平成26年度 各種大会・研修会日程

■ 第71回 学童歯みがき大会	平成26年6月4日(水)	インターネット
■ 平成26年度健康づくりフォーラム	平成26年7月31日(木)	都庁
■ 第65回 関東甲信越静学校保健大会	平成26年8月21日(木)	千葉県 大会：幕張メッセ国際会議場 職域部会：ホテルニューオータニ幕張
■ 第65回 “ 歯科職域部会		
■ 第78回 全国学校歯科保健研究大会	平成26年10月23日(木)～24日(金)	島根県松江市「島根県民会館・ホテル一畑」
■ 第64回 全国学校保健研究大会	平成26年11月6日(木)～7日(金)	石川県金沢市「石川県立音楽堂」
■ 第64回 全国学校歯科医協議会		
■ 平成26年度学校保健(学校歯科医)研修会	平成26年12月11日(木)	歯科医師会館 1F大ホール
■ 平成26年度学校歯科医基礎研修会	平成26年12月11日(木)	歯科医師会館 1F大ホール
■ 第49回 東京都学校歯科保健研究大会	平成27年2月12日(木)	文京シビック大ホール

会 務 報 告

4/3(木)	会計閉鎖	会館
	都歯附属歯科衛生士専門学校入学式	会館
4/5(土)	第1回学術部会	長井歯科診療所
4/10(木)	第1回事業部会	会館
4/13(日)	第2回学術部会	長井歯科診療所
4/15(火)	会計打合せ	会館
4/17(木)	第1回理事会	会館
	第1回会誌・広報委員会	会館
	ライブラリー打合せ	会館
5/1(木)	ライブラリー打合せ	会館
	第2回事業部会	会館
	第1回全国大会実行準備委員会	会館
	第3回学術部会	会館
5/7(水)	ライブラリー打合せ	会館
5/8(木)	ライブラリー打合せ	会館
	第1回予算決算特別委員会	会館
	第2回会誌・広報委員会	会館
	監査会	会館
	東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業	
	選定校連絡会	会館

5/15(木)	第2回理事会	会館
	第1回参事会	会館
	参事懇親会	中国飯店
5/22(木)	図画・ポスターコンクール審査依頼	東京学芸大学
	第2回全国大会実行準備委員会	会館
5/29(木)	第3回事業部会	会館
	第3回全国大会実行準備委員会	会館
6/4(水)	第71回学童歯みがき大会	インターネット
6/5(木)	第3回理事会	会館
	第3回会誌・広報委員会	会館
	第1回学術研究委員会	会館
6/12(木)	日学歯代表会員打合せ	会館
	第3回定時代議員会	会館
	ライブラリー打合せ	会館

【訃 報】

本 所 岡村 豊 (二葉小学校) H26. 4. 1 逝去
練 馬 森本 健司 (中村小学校) H26. 4. 20 逝去

上記の先生が逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。(敬称略)

コ ラ ム

「しがみつく」

「いまの子は、しがみつくということができないんです」学校で先生と歓談中突然の言葉に、今まで考えたこともなかった事実が驚くやら、そうかもしれないと思うやら。…昔は自転車の荷台に乗せてもらうときは、振り落とされまいと必死にサドルや荷台に「しがみついた」ものです。ところがいまは、背ずりのついた子供用のシートに、チビがふんぞり返って乗り、しがみつく必要のない安全器具が増えてきている。これ

も一因か…というご意見でした。

「鉛筆の握り方」もう少し何とかならないかとお聞きすると、「指の力が弱いので、正しい持ち方で長時間書くことができない。そこで鉛筆を指で丸く囲むように握って芯の先が自分の方を向く、いま気になるあの持ち方でないと、長時間書くことができないのではないか。」とのお考えでした。これ等のことと「噛む力」と関連があるかと、一瞬思ったひと時でした。

(関根 正行)